

# 夏休みの 過させ方について

教頭 小塚 久美 雄



しでがの通信  
第55号

羽津小 P・T・A

編集発行

発行所 羽津小学校

今年も、はや夏休みとなりまし  
た。今年からその期間が五日間長  
くなりました。いつものことなが  
ら、この長い休みをどのように有  
意義に過させるか、ご家庭におい  
てもいろいろと気を配られること  
と思いますが、夏休みをどのよう  
に過させてよいかということには  
いろんな意見や考え方もあります。  
季節のうえからいえば、平素のよ  
うな学習を続けさせるのに相応し  
いとはいえないと思います。この  
時期にいつもと同じ方法で、同じ  
ような量の学習を強いても結果は  
必ずしもよいものが得られるとは  
考えられません。夏休みに時間が  
あるからといって単に学習だけ  
を行うのなら、何も夏休みにする必  
要はないと思います。そこにはよ  
り高い立場からの教育的な意義が  
あるわけで、平素はやり得ないこ  
とをこの期間にやって子どもたち  
の創造性をのばしていくのだと思  
います。また長期間の治療を要す  
るものをこの期間にしておく、一  
学期をふりかえり不十分な点をこの

## 目 次

夏休みの過させ方について	1
こんな夏休みをすごしたい	2
我が家の夏休み	3
楽しかったグリーンスクール	4
学級懇談会のまとめ	8
児童生徒の補導に関する申し合せ事項	11
常任委員会だより	12

機会に学習しなす。そして来る  
べき二学期に備えることが大切な  
のではないでしようか。

あまり学習に重点をおきすぎるの  
でなく、学習と遊び、そして水泳  
子ども会の行事など、うまく組み  
合せて、楽しく、余裕のある計画、  
日課を子どもと相談しながら設定  
しきちんと守る約束をしておくこ  
とが大切かと思えます。

ともあれ、夏休みは子どもたちの  
体を充分に鍛えておくことが一層  
大切なことだと思えます。以下、  
学校としての考えをまとめておき  
たいと思えます。

一自分からすすんで計画し、実行  
することによって「できるのだ」  
というよろこびをもち、日々の  
家庭生活の楽しさを味わせる。

二心やからだを充分きたえるとと  
もに休養をはかること。  
三長い休み中、時間をむだのない  
ように使う工夫をし、自ら進ん  
でするという生活態度を身につ  
けさせたい。

四地区子ども会の活動、行事に積

極的に参加する。  
交通安全は勿論のこと、その他  
水の事故、危害予防にきをつけ  
る。

以上大きく五つの目標のもとに、  
日常生活について

◇むりのない計画・日課をたて  
生活に折り目切り目をつける。  
◇子ども会の約束や、申し合  
わせは、自分たちできめたこ  
となのだから、きちんと守る  
ようにする。

休み中の学習について  
◇学習時間をきめておく、(朝  
の涼しい間がよい)

◇学習のめあてをきめて、学習  
時間はよくばらない。  
◇平素できない観察、製作、調  
査など根気よくやる。  
保健・安全について

◇長い休みを利用して治療しな  
ければならないところはこの  
機会にする。  
◇ふだんとちがった時間帯にふ  
だんとちがった所へ外出す  
ることもありますが交通安全

には特に注意する。  
その他  
学校プールの使用、霞ヶ浦緑地市営プールの利用については、学校からの注意をよく守り、事故のないように、他人にめいわくをかけないよう気をつける。  
外出時には行先・目的・帰宅の時刻を家の人に必ずつけて

# こんな夏休みを すごしたい

五の五 伊藤美香

もうすぐ夏休み。ことしこそは楽しい夏休みにしたいと思っ

た。それに、ことしは、かすみの水泳教室へ申しこむ予定だ。行くこと決まれば、「息つき」ができるという思いで、わくわくする。わたしは、一年の時から泳げるのに、あれから全然進歩していない。三

おく。  
たいへんいろいろなことをたくさん書きましたが、ご家庭での指導にあたって、役立てていただければと思います。  
四十二日間の夏休みが、子どもたちにとって本当に有意義なものになるよう家庭と学校が一体になって努力したいと思えます。

年の時、水泳教室に申しこんだが、弟が、入院したため、行けなかった。四年は忘れていた。だから、ことしやっと思行けるのだ。  
ことしは、いつもより早く夏休みが始まる。その分だけよけいがんばりたい。

四の四 小林 なおみ  
わたしは、夏休みに、本を、たくさん読みたい。伝書や物語や童話などいろいろな本を、読みたい本を、読んで、感想文を、たくさん書いてみたいと思っています。

図書館でかりてきた本、図書室でかりてきた本、家にある本などで、もう一つは、旅行に、行きたいと思っっています。なら県や、京都など昔のお寺がのこっている所です。たとえば、近い所でもいいのです。旅行に行っていることを、知ったり、見たりしてみたいからです。いろいろな町や村のとくちょうや、くふう、そのほかいろいろのことを、知りたいからです。本を読むのは、昔の人がどんなふうをしていたのか、どんな物を、だれが発明したのかを知りたいからです。  
夏休みに、したいことを、二つかきました。

四の四 相松 きみえ  
わたしは、まえの夏休みより、勉強を、たくさんしたいと思っます。  
まい日、ラジオたいそうをして、勉強をする時間と、遊ぶ時間をきめて、勉強するときは、勉強をいっしょうけんめいして、遊ぶときにはおもいきって、遊ぶことにしたいと思っました。おこづかいも、あんまりつかわないように、せつやくして、お手つだいも、たくさんして、妹をいじめたりしないで、なかよくし、おとうさん、おかあさんに、あまえたりしないようにしたいと思っます。

そうしたい理由は、前の、夏休みより、きまりのよい生活をしてがんばろうと思っからです。私は勉強も、発表も、あんまりしないから、夏休みに、うんと、勉強をしようと思っからです。

二年 ひぐち えみ  
夏休みになると、まいとし花火たいかいがあります。  
ことしは、花火たいかいには行けません。だけどおばあちゃんのところには行けます。  
おばあちゃんこのちかくにうみがあります。  
しおがひくと、わたしはおねえちゃんせつつこねえちゃんだけで行きます。  
だけどいちはんきらいなのは、夏休みの友がいちばんきらい。もうひとつは、花火たいかいに行けないからいやです。  
花火たいかいに行けないかな。うみの帰り、先生にかいからのおみやげかってきてあげるよ。



思い出の多い、有意義な、夏休みであつてほしいと思っっています。

福島 弘子

何度かかえても、子供達にとつては、楽しい夏休みです。  
親の方が一生懸命になつて、すぐした事もあつた夏休み。気持ちの上でも、行動の上でも、親が先ずした様な気がします。子ども達は、日一日成長しています。心も身体も、その子ども達も、自分で考え、選び、いろいろなサークル活動にも、参加出来る様になつてきました。子どもが自分からすすんですることを大切に、母親としては、よい助け手になれる様努力したいと思っます。低学年の子どもと、高学年の子どもとの生活のバランスを考えて、一人一人がう子どもを、よく知ることにつとめたいと思っます。  
家庭生活の面からは、今まで、している 朝の仕事の分担が、そのまま、続けられる様、お互いはげまし合つていきたい。そしてこの夏休みの食事作りは、子どもと一諸に、いろいろしてみたいなあとと思っっています。

# 我が家の夏休み

住山 政之

我が家では毎年夏休みに子供達と一諸に小旅行をする事にして

る。小旅行といつても殆どは日帰りであり、あまり人の行かない所をねらっている。  
昭和46年は、鳥羽と賢島。  
賢島の水族館と島めぐり、鳥羽の真珠島等に行つたが、子供達は船に乗るのが初めてのせいもあつてか、島めぐりに気があつた。

昭和47年は、醒ヶ井の養鱒場。近鉄、新幹線、東海道線、養老線を乗りついで往復し、鉄道の勉強も合せて配慮したつもりだったが、子供達は養鱒場で食べた、紅マスの塩焼きのうまさをお忘れな

いでいる。  
昭和48年は奈良。  
暑かったという印象が残つており子供達は鹿と一日過ごしていた。

昭和49年はテントかついで官妻峡でキャンプ。  
初めての一家総出のキャンプに子供達は張切っていた。鎌ヶ岳登山を試みたが、オヤジが一番にパテで途中でバック。

昭和50年は、東海自然歩道をおんびりと歩いた。

椿神社から官妻までの途中、セミが草むらから次々と飛び立つのを見て子供達がおどろいていたのが印象に残っている。  
今年には鈴鹿青少年スポーツセンターに宿泊、プールで思う存分泳がせる計画である。

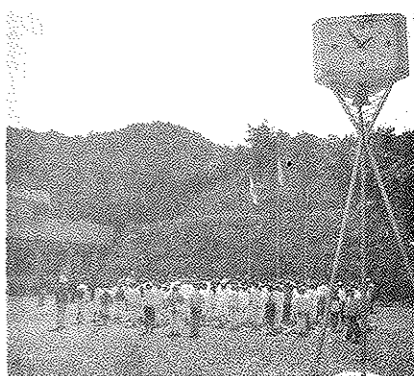
このスポーツセンターは鈴鹿サークットの隣にあり、種々のスポーツ設備があり、宿泊設備も完備しているのので、スポーツの合宿に適している。

以上の様に我が家では、夏休みといつて特別に大きな計画はない。しかしささやかではあるが毎年どこかへ出かける様に心掛けて

山手町 酒井 くに

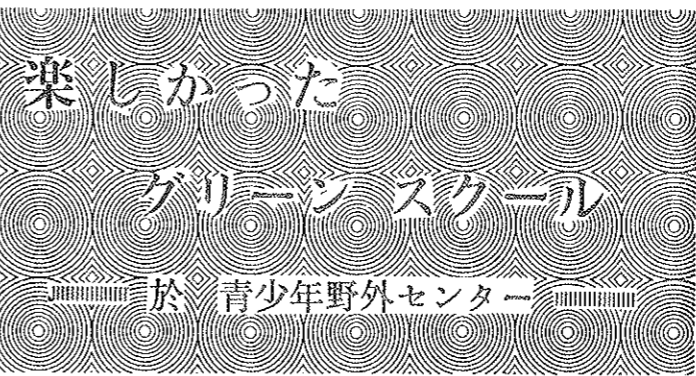
来年は子供に計画を立てさせようと思っっている。  
「わあー暑い」 まっかな顔を

して汗びっしょり これが夏です。私は、子供達に屋外でおもいきりのびのびと、まっくらになるまで遊ばせませう。強い精神力と、体力とを養い健康に育つようにと願ひながら……。  
我が家の方針は、夏休み中のラジオ体操には、三才の時から参加



楽しかったグリーンスクール

六年一組 黄田恵子
私たち、六年の一、二、三組は六月の七、八、九日に、水沢の青少年野外活動センターに行った。そこは、緑にかこまれた山々が、センターの回りをとりまいていた。一日目の日程は、ついたらすぐに、野外観察である。一、三コーズを通過してセンターに帰る。いささかつかれた。

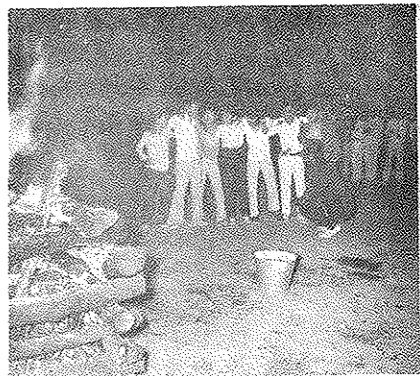


その後、夕べのつどい、次は、食事と入浴である。あとはいよいよ、お楽しみ、キャンプファイヤーである。みんなで、歌って、みんなで踊ってファイヤーを囲んで、とっても楽しかった。さあ、十時、就寝の時間だ、おふとんがちがうせいもある、私は全然ねられない。うとうとしていると、となりの人がいびきをかくし「モォーイヤッ」なんて言いながら、六時までグリー……一日目の反省、おふろの中で、さわいで、しかられてしまった。それから、キャンプファイヤーの時に、あまりスムーズに、事が、はこばなかった、私は、集団行動をする時には、人にめいわくをかけずに、サッサと早く仕事をすること、協力し合うと言うことが大切な事がよくわかった。二日目の日程は、起床の後、せ

んめんをして、食事のあとは、ちよつと自由時間とそうじ、午前十時、宮妻峽に出発、これは、つかれた。モォーダメ。帰着後の牛乳とヨーグルトは、冷たくておいしかった。やつとここで一息。予定より、早く山から帰って来たのでお楽しみ会、後は、食事と入浴、夜は、星の観察だったが、これは、くもりで見られず映画に変わろう。二日目の反省は、あとかたづけがよく出来ず、映画の後に志村先生にいろいろと注意された。三日目、いよいよ、最後の日ががんばろう。三日目は、とくになし、作文を書いたぐらいあとは帰る。二泊三日と言う、短かったがとても楽しく、六年の思い出に、深くのこることを思います。

緑の学校

六の二 木村尚代
六月七日、暗い森林をぬけてしばらく行くと、かんげきの一しゅんがやってきました。本館、と書かれている門を通ると前に白い建物が見え、と建っている。でもすぐに野外活動に出かけたので、その中にはいれなかったことが残念だった。さっきまで、センターまでの道を歩いてきたので、つらかった。この日は、森林・植物の観察をした。



センターへ帰る。早く帰りすぎたのか近くで休けいになった。しばらくして、入所式・オリエンテーションをした。毛布のたたみ方洗面所での注意など、いろいろ教えていただく。そして、まことにまった部屋へはいる時。どんな部屋なのか、いろいろ想像して、8号室にはいる。少しうす暗い部屋。そのかべにしっかりと組み立てられた二段ベツト、私は一度にこの部屋がすきになった。

食事、入浴、みんなと行動することが、こんなにも楽しいとは、思わなかった。十時、消灯なのに、みんなねむれないのだろう。遠くの部屋からも声が聞こえてくる。二日目、宮妻峽行き、空は雨

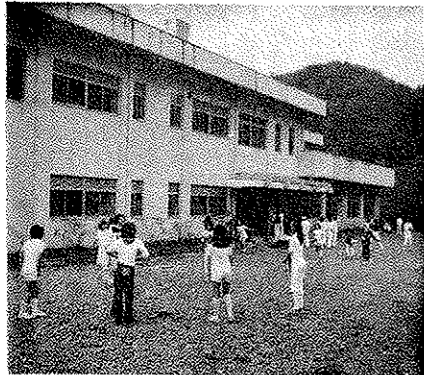
が降りだしそうだ。一時間ほど歩くとやっと着いた。川を苦労してわたり、向こう岸で弁当を食べた。少し休んで、センターへ帰った。思えば、宮妻峽で何を学習したのかわからない。夕べのつどいをすまして消灯。

六時。もう朝がきたのか。と思つたくらい、短かかった気がした。顔を洗い、ふとんの整とん、少し、たたみ方がちがっていた。空を見ると、また雨が降りだしそうだ。二日も雨が降っていませんでしたので、降るだろうとは予想していたが、降りだしたときは、さすがに残念だった。最後の朝のつどいをきちんとすましたかった。いつもは空に流れているはずの校旗も今日は上げられない。雨が降っている窓の外を見るのはつらい気持ちだ。反省はセンターの人にほめられたことが一つもなかった、残念だった。

グリーンスクール

六の三 矢野 和子
「夏もちかづく八十八や……」みんなバスの中で歌っている。今からセンターへ行くのだ。バスからおりてセンターまで歩いてから森林観察に行った。木にさわったりして、わかったことをメモした。

なれないことなので、歩くのが少しえらかった。いろいろな想像していたが、これほど空気のよい山にかこまれている所だとは思わなかった。センターにもどり、先生から注意をうけた。ここでは私たちが、いつもやらない決り正しい生活をやる。今まで、そのことを忘れていたことに気づき、今まではがはずかしく思った。食事をしたりお風呂に入ったあとには、たのしみにしていたキャンプファイヤーの時間だ。歌を歌ったり、また聞かせてもらったりした。いやがっていたフォークダンスも楽しくできた。消灯時間になった。その夜はなかなか、ねむれなかった。二日目。朝、ねごこちの違うのにおどろいて起きた。ハイキングは、宮妻峽まで行く。緑の草や木のおいにかこまれている、川の美しい風景を見ながら屋敷をとった。そこでは、緑のすばらしい美しさはつきりとわかった。その夜は、映画を見てから、すぐにねた。三日目。今日は、六時五分まえまでゆっくりと



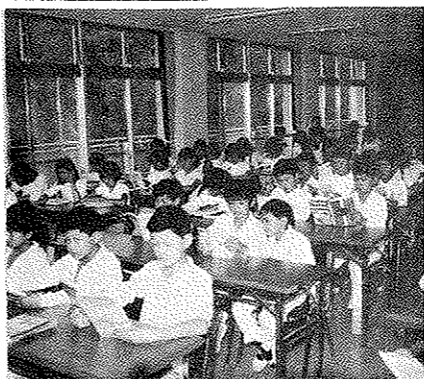
りとねた。もう今日で終わりだと思つと、残念でたまらない。私は、「もうずっとこういう公害のないところで住んでみたいなあ」と思った。前から、すみきった空、何のよごれもない空気、すきとおっている水、緑の山などのあるところだ。だから、短い期間だったけれど、ごせたのがとてもうれしかった。ここでは、みんなといっしょに生活する楽しさがよくわかり、ほんとうによい経験になった。こんな、すばらしいセンターを造ってもらったことに、私たちは感謝しなければいけないとつくづく心に感じた。

グリーン・スクールの思い出

六の四 坂倉 玲次
わいわい、がやがや、とてもさわがしい。ここはバスの中、ぼくたちB班は六月九日の朝出発した。

みんな希望に胸をふくらませ、わくわくした表情があふれていた。ぼくも、もううきうきした気分だった。バスからおりて、細い山道を上り下りして、ようやく木々の中からぼつりと白い建物が見えてきた。「さあ、着いたぞ。」あたり一面緑で、やはり山の中の学校だなあと、思った。

ここでは自然に学び、自然を愛し自然に親しむ心を持たなくては、ならないと思う。第一番に入所式をし、センターの人の話をしっかり聞いた。さあ、これから楽しい三日間の生活が始まる。まず、緑の学校で勉強したことは、雨の中自然観察に出かけて、たくさん植物の名まえを知った。また、センターのおじさんが話してくれたへびの習性、森に住んでいるさまざまな野鳥、そして天然記念物の、もりあおがえるの説明などが、とても興味深かった。雨のため講義室でやったミニキャンプファイヤー、勉強になった



自然の映画、広場でしたフォークダンス、中でも一番楽しかったのがミニキャンプファイヤーでの出し物で、たとえば歌に合わせたゼスチャーおどりや、かえ歌など、笑いこぼるほどおもしろくて、とても楽しい夜だった。

ほくは、このミニキャンプファイヤーが、緑の学校の中でも特に印象的だった。

これが屋外で、星をあおぎながらできたら、楽しさも倍増しただろうと思うと、ちょっぴり残念に思った。

他には、みんなといっしょに食べた食事、さわいではいけなくても、つついっ解決的な気分になりさわいでしまった入浴、初めて皆とねた夜など、今では一つ一つが思い出として残っている。

ほくは、この緑の学校で集団生

活の楽しさ、規則正しい生活、自分自身の責任を果たす役目などを改めて知った。

この経験を活かし、修学旅行や、これからの学校生活に、役立てようと思う。

### グリーン スクール

六年五組 小畑知子

待ちに待ったグリーンスクール六月九日、私達は、自然の中の生活へ一歩足をふみはじめた。これからどんな事があるかを前にしてだが空は、あいにくの雨。半分楽しみがくずれたような気がする。バスからおりると回りは、茶畑ばかり。ブーンといいにおい。今までいたところとイメージチェンジだ。急に私は、胸がわくわくしてきた。片に重い荷物をぶらさげあせをかきながら歩いているとやつのことでセンターが見えた。私は、立ち止まりあたりを見回した。山にかこまれ白くうきあがって見えるこのセンター。私達は、ここで三日間過ごすのだと思うとうれしくてならなかった。

センターへつき私達は、喜びとこれからの出来事との不安な気持ちでセンターの中へ入った。お昼は、雨のためせつかくの母からのおべんとうが山で食べられず講義室で食べた。自分たちの部屋も見つけ、どろんこだらけの洋服を着

がえ、整理整頓をして私達は、入所式を待った。

入所式では、センターの人たちからの紹介、注意をたくさん受け守らなければならなかった。私はただ不安な気持ちで注意を頭に受け、そしてこれがどんなにきびしいかを私は、今始めて知ったのだ。それから、自由時間だ、みんな、それぞれ持ってきたマンガ、トランプなどで遊んでいると放送がかかった。それは、食事係は、食堂へ行くということだった。私は、すぐ食堂へかけつけ、食事の用意をした。なかなか数が合わずやつのことで合い食事にかかった。始めての自然の中の食事窓の外には、木が茂り、森の中にあるようなこのセンター。そしてそこにまたおじさん、おばさんの心のこもったおいしいごちそうがあつて「次は、何食べる。」と相談し合いながら楽しんで食べた。

第一回目の消灯時間、なかなかねむれず、今から考えてみると私でも信じられないほどの二、三時間すいみんだったのだ。

翌日もやはり雨。朝食を食べ、野外活動に出発だが行きがけになると思いもかけないほどの晴天になってきた。山を登ってそこからのけしきが格別にすてきだ。人工林が規則正しく並んでおり、本で見るとそっくりだった。長い山登

り、いろいろな植物、私には、まだまだわからない事や不思議な事が多すぎて頭が混乱しそうだ。ゆめの中での気分になりかけた大きな木の中、まるで森の中を迷っているみたいだった。ただ、このうす暗い空が青空になってくれたらどんなにすてきだろうと私は、つくづく思った。

やはり雨なので自由時間も長い自由時間では、友達におしえてもらったトランプのスピードが評判になり、どこかもがトランプばかりしている。いままでのスケジュールがだいたいおぼけているようだ。だがキャンプファイヤーだけはぬけてもらいたくなかった。が、やっぱりキャンプファイヤーは、外でできずセンターでのミニキャンプファイヤーなのだ。私達のは、外でできずセンターでのミニキャンプファイヤーなのだ。私達のは、外でできずセンターでのミニキャンプファイヤーなのだ。私達のは、外でできずセンターでのミニキャンプファイヤーなのだ。

今から考えてみると思い出に残ることは、たくさんある。みんなとさわいだおふろ、友だちと二人でねた夜。ねむれなくてとなりのへやへこっそりとはいっていったこと、トランプでみんなと遊び、あせをかいて遊んだバレーボール男の子とおどってはすかしかった。

### 緑の学校

六の五 岡田 明子

ああやまとまち続けてきた、緑の学校出発日。六月九日がきた。みんなも、私と同じ気持ちらしくうきうきしている。向こうへ行けば、一番の楽しみ、キャンプファイヤーもできるし、森林観察みんなとねとまりもできる。それに三日間、自然とともに生活ができるのだ。

九時、バスに乗りガタゴト。三本松まで、このバスで……。歌を歌ったり、しゃべったりして三本松へと進んで行く。

さあ、三本松に到着。ここから四日市青少年野外センター、つまり緑の学校までは徒歩だ。

途中には、つり橋があったり、樹木には、名札がつけてあった。大きな池が見えてきた。「緑の学校」案内に書いてあった大門池であろうか。その後方に鉄筋だての学校のような建物が建っている。これから三日間、ここで、ねとま

りするのだ。でも、今日の天気は雨……。楽しみのキャンプファイヤーもできそうにない。しかし、三日間のうち、どの日にかは、キャンプファイヤーをすると、係の人がおっしゃったので、「よかったです。」と思った。

にもつをおき、すぐに森林観察に行つた。ムラサキシキブなど変わった名の樹木がたくさんあった。でも、雨の中を行つたので、樹木を見るとより、服をぬらし、帰つたといつた方がいいかもしれない。それぞれ自分のへやに入つた。

私は、三号室。自分のベットをじゃんけんて決めた。私は、二階の方でねることになった。

二日目、やっと雨があがつて、晴れまがでて、森林観察にでかけた。青々としげる緑。この中に理科で習った、常緑広葉樹林も落葉樹林も、下草類もいっばい混じり私は、胸いっばいに、緑の空気を吸いこんだ。この緑の中を、どんどん登って行って頂上についたとたんに、見はらしよくなり、見おろす下は、緑一面で、これが本当の緑の学校だと思つた。

林の坂道を一気にかけおりました。そして、センターまで帰つてきた。この日の夜は、ミニキャンプファイヤーがあつた。どの班も、いろいろなものをおしを行つた。

私達は、かえ歌をやつた。おもしろい歌を歌う人や、美しい合唱をする人など、いろいろあつた。夜は昼間のつかれで、ぐっすりねむれた。

さあ、羽津に帰るのだ。雨にふられた緑の学校だったけれど、けつこう楽しい二泊三日だった。私にとつては、とてもよい思い出の一つとなつた。

私が鈴鹿地方の小学校で、一年生から六年生迄六度夏休みを過ごしたのは、昭和九年の夏から昭和十四年の夏迄の事です。昭和十二年の夏には、日支事変が、勃発し、その後不幸にも大平洋戦争に発展し、世界の多くの若者が、血を流し、尊い生命を、失うきっかけとなつた恐ろしい年でした。

### 夏休みの思い出

藤田 秀美

私の兄二人も、戦争に参加し、やがては、白木の箱にカラコロと音をたてて骨となつて、帰って来ました。

とある様な、水の色、凡てが、新鮮で、清浄な、自然の中に生活の出来た私は、今思い出しても胸の熱くなる思い出です。

私は夏休みになると、次男である方の兄と、よく川遊びをやつたり、川魚をとつたり、八月中の、夏休みは、身体が、黒光りする程、夏の直射日光のもとで遊び、八月も、やがて終りに近づくと、夏休みの日記帳の、整理が出来てなく、母親か

現在の小学生の皆様に比較して、何ものにも代え難い自然の宝庫を、満喫出来た少年時代であつた様に思います。今更思い出す度に、かけがえの無い自然に只感謝の思いを蘇らせるのみです。

# 学級懇談会のまとめ

◇…テーマを決めての学級懇談会はいかがでした……◇  
 ◇…でしょうか。各クラスで話し合われた内容を……◇  
 ◇…学年代表委員にまとめていただきました。参……◇  
 ◇…考になればと思います。なお、今後の学級懇……◇  
 ◇…談会に於ても多数参加され、活ばつな発言を……◇  
 ◇…していただきました。……◇

## 一年 藤井三保子

◇塾 一年生は通う必要なし。  
 親が注意して目を通してやればよい。まだ学校に入って日も浅いので勉強という事が、あまりわからなくて、友達と遊ぶのに一生懸命なので、先生の方から少しづつ宿題を出してほしいとの意見が大部分でした。  
 「習字、ピアノ、エレクトーンなど習い事は才能を伸ばすので自由でよい。」  
 ◎家庭のしつけ、叱り方  
 常識的な事があまり出来ない。朝、顔を洗って歯をみがく、簡単なようではなかなか出来ない。朝晩のあいさつ、各家庭での決った時間に起きる、寝る、外から帰る時間を決めておく。家庭でもなるべく親が気をつけていれば子供は自然に出来るように

◎叱り方  
 なる。テレビについては各家庭の自由でよい。  
 叱る前に子供の事情をよく聞いてから親が冷静になってしからものならばしかるようになる。何んでもかんでもしかるばかりではいけない。子供にとって先生がいちばんこわいようです。先生に言い付けるといふとよく言う事を聞く。  
 ◎小遣いの使い方  
 一日平均三十円〜五十円  
 一年生はほとんどの家庭が毎月の小遣いは決まっていなくてその都度の家が多い。  
 使い方については男の子、バッチ、ゲーム、女の子、クリームお菓子で近くに店屋のない町では使わない。  
 第一回懇談会のまとめとして、各学級ともあまり意見が出なかつ

たそうで、先生にまかせきりの組が多かったそうです。これからはもっともつと皆さんの活発な意見を聞きたいと思えます。

## 二年 小川光子

◇二年生は、懇談会の内容を、都合で、出席出来なかつた方にも、知っていただく様に、各学級別にまとめました。  
 一組  
 ◇教育面について……親は叱るのではなく誉ようという事になった  
 ◇遊び……自転車など、危険事でも身体で体験させよう。  
 ◇塾……半数が行っている。  
 自分から17名、親に言われて9名、親がやかましく言うのは逆効果である。  
 ◇成績、勉強嫌い。  
 子供に責任を持たし、その子の得意を見つめる。細やかでも良い所を見つけてほめるとやる気が起ってくる。  
 ◇二組  
 ◇宿題……毎日5〜10分位で終える程度に出して欲しい。  
 ◇小遣い……現在は一ヶ月毎の小遣いは与えていない方が多く子供が欲しい時のみ与える方が多い。結果として親の監視の元でその子の性格、家庭に応じて与え

る。  
 ◇塾……子供中心、一人に一つは塾通い。  
 先生へ、一ヶ月に二、三回理解出来ない子供のために勉強の時間を作ってほしいとお願いしました。  
 ◇三組 出席者二十二名  
 ◇宿題……(国、算)土曜日を除いて毎日(社、理)自然の姿を良く観察させ、一つ一つを、教えてやろう。(家で)  
 ◇塾……先生の意見としては必要なし。ただし、ぼつぼつ差がつくから、家で三〇分ぐらいは机に坐る習慣をつけてほしいとの事。  
 ◇話せる子……子供らしく、人間性を作る意味でも、誰にでも、何でも話せたらその子は立派で、すばらしい。  
 ※火曜日に勉強、体育、音楽、等特別みていただいているとの事、父兄一同感謝しており、子供も楽しみにしている。  
 ◇三組習いもの調査(参考により)  

人数	7
な	に
なら	い
ら	ば
ん	字
習	字
オ	ル
ガ	ン
ノ	8
ピ	ア
ノ	2
エ	レ
ク	ト
ン	ン

 子供は遊びの中から学ぶ事沢山あり、遊ぶ事大賛成。  
 ◇四組 出席者十七名  
 ◇宿題……「机に向かうという事の習慣づけ」の意味では必要である。(負担のない程度)

人数	7
な	に
なら	い
ら	ば
ん	字
習	字
オ	ル
ガ	ン
ノ	8
ピ	ア
ノ	2
エ	レ
ク	ト
ン	ン

◇四組 出席者十七名  
 ◇宿題……「机に向かうという事の習慣づけ」の意味では必要である。(負担のない程度)

## 四年 藤井晴子

四年生は、父兄の、関心度が一番低くなる時です。子供達をより一層理解する意味で、アンケートを取っていただき、その結果で、お話し合いを進めていただきました。その結果、話題になりました事は、  
 (1)「両親に、遊んでほしい」がおもて、今の子供は、友達同志の遊びのおもしろさを知らない。  
 (2)母親への家庭的な要求が多いので、休みの日など、家族全員で、お菓子作りなどの工夫を。  
 (3)勉強が難しいので、先生も大変子供も大変、その事をもっと母親が知るべきである。  
 (4)思春期の芽生えなのか？ 父親に、「人に対して親切にしてほしい」「夫婦喧嘩をやめてほしい」「妹の前で叱らない」。  
 (5)行動の範囲が広くなり、交通事故など、家庭で、注意をしてほしい。  
 (6)反抗期で親の言う事を聞かないので、しつこく困っている。  
 (7)母親は、父親よりよく叱る。叱ることは容易ですが、誉めることは難しい。  
 (8)小遣いの金額は、平均で、

# し で が の

◇塾……低学年では遊びの中の社会性を身につける方が、効果的であつて、しばらくは良い。  
 ◇遊び……積極的に友達と遊べない子の問題。  
 テレビの見すぎについて。  
 ◎五組  
 ◇宿題……毎日出してほしいと言ふ意見が多く出た。  
 ◇ドリルは時間を掛けずに早くする。  
 ◇その他……親が試験の点数にこだわってはいけない。  
 睡眠をよくとる事(十一時間)は必要。授業中にくびをするから  
 ◎全体から  
 親の気持としては、家では勉強をしないから勉強する意味で宿題を出してほしいのではないでしようか？ 勉強はまだまだこれから一つでも多くの体験をさせ、豊かな心を作りあげる様に、大いに遊ばせようではありませんか？  
 として影からそつと暖かく見守つてあげようではありませんか。

## 三年 稲垣富子

三年生の懇談会のテーマは家庭学習としつこく話していただきました。家庭学習については宿題と塾ですが、三年生では塾に通う必要はないのではと云う意見が多数でした。参加者の中で二、三名の方以外のお子さんは通塾していま

せんでした。宿題は毎日少しづつ出して欲しいとの意見です。低学年児童ではやはり宿題がないと余り勉強しない、予習復習も大切だがやっている人は少ない様に思いました。漢字は特に必要だから必ず練習する様に、高校生、大人でも誤字が多い。小さい時から正しく漢字を覚えておく必要がある等でした。  
 ◇家庭学習とは親子共に勉強の場である。お母さんがテレビを見ながら子供に勉強しなさいと言ふのではなく、本を読みながら台所で野菜をきざみながら一つの事に真ん中に打込んでいる親の後姿を見て子供は言われなくとも自然に学習する。  
 ◇家に帰ったらオヤツを食べながら学校の様子、友達の話等話を聞いてあげる。まず聞き上手になる。一日一度は机に向かう習慣をつける。家庭では教える教育より育てる教育に重点をおき人間性や個性その他望ましい人格を育成する事に重点がありそれは両親が担当者になるのではないでしようか次に、しつこく話して。小遣いの与え方、使い方について話し合いました。各家庭の状況によって異なりますが月にまとめて与える人五〇〇〜一、五〇〇円、週に一度一〇〇〜三〇〇円必要に応じて与える、毎日与える三〇〜五〇円さまざまでしたがしつこく話して

小遣いの与え方が子供にとつては重要な意味をもっている。子供に計画的な経済生活の初歩的な経験をさせる。また、自分の小遣いを自分で判断して貯金したり使ったりする経験を通じて自分の責任をもつて管理するという自主的な態度や能力を高める等、そうした点から一ヶ月まとめて与えるのが望ましいと思えます。しかし低学年では最初から月ぎめで与える事は無理な場合もあるので日給からはじめ週間単位で与え、二週間、一ヶ月へと進めていく。  
 いずれにしても子供が計算できる範囲で考えていく、そして低学年児では多額なお金を与えると乱費ぐせがつくので三年生ぐらいで千円前後が適当でないかと思う。一度与えた金額の中で使途については余程の事が無い限りうるさく言わない様に。そして中学校位で小遣い帳をきちんとつけられる様にしておく事が望ましいのではなないでしようか。いずれにしてもしつこく、学習は学校教育、家庭教育両方にあるのではないでしようか。  
 教育とはかくれた能力を引き出す事である。親、教師は子供の可能性を引き出すにある、まず己れ自身の教育が必要になってくる。  
 テーマを決めて初めての懇談会でも司会も不馳れ故心配でしたがた

千円前後で、いろいろなケースがありましたが、その他に、家庭学習のあり方、塾のことなど、いろいろ参考になる話し合いがおこなわれました。その日の出席者の半数以上の方がお仕事を休んでみました。これからも、お忙しい方程、この機会に、懇談会に出席願って子供のために、裸で、話し合える、より有意義な懇談会を催すことが出来ればと思います。

五年 柴田 孝光

去る六月二十五日に開かれた授業参観と懇談会に於て、五年生各クラスでの話し合いの中に出された主な内容を報告します。

- 一、子どもの小遣い銭について。
  - ◇小遣いの与え方は各家庭によっていろいろある。
  - ◇月に「いくら」という与え方。
  - ◇必要に応じて与える家庭。
  - ◇ほとんど与えない(子供も要求しない)家庭。
- 二、小遣いの使い方について。
  - ◇子どもどうしの貸し借りがあ
  - ◇雑誌、マンガ、ゲーム遊び、菓子類が多い。
  - ◇「まとめ」

小遣いの与え方は各家庭によっていろいろだが、子どもとの話し合いの上で、適切と思われる金額を与えるにすればよい。使

方については、親も知り、適切な指導、助言をすることが大切である。

二、家庭学習について

- ◇町別球技大会の練習で、学習時間がとれない。
- ◇学習は学校にまかせておけばよい。家庭ではのんびりさせてやりたい。
- ◇学習内容が多いので、もう少しゆとりのある内容にしてほしい。
- ◇むつかしすぎる。
- ◇体力づくり、精神たん練に重点をおいてほしい。

「まとめ」

計画性をもって一日一日を根気よく送るように努力する事が大事である。学習計画は無理のないようにすべきである。

三、その他

今の子どもは仕事をしない。何かさせようとすると、「いくらくれる」という。もう少し家庭でも学校でも、体を動かす仕事をさせるべきである。

子どもどうしのプレゼント交換は出来ればしない方がよい。



六年 小井 弓子

今回の懇談会は、三割五分の出席率ですすめられました。時間的制約のために十分に討議を深められませんでした。中学を目前にした父兄の関心は、やはり強いものがありません。

各クラスの約三分の一が学習塾に通っているのが現状で、理、算国の必修科目に次いで、英語が多いのが印象的でした。技能的な面では、習字、そろばんが多く、ピアノ、水泳、絵、空手、琴、めずらしいところではトランペット、折紙などもありました。八割強の子どもたちが、なんらかの塾に通っているようです。

さて、その目的、動機についてですが、予想に反して「子どもが自発的に行っている」と答えたお母さんが多かったのは意外でした。他に「商売が忙しく家庭学習をみてやれない」「小学校も高学年になると親が教えられない」「中学の準備のために」勇気ある少数意見としては「一流高校、一流大学に入りたいから」という卒直な意見も出され、本音に触れたようでも考えさせられました。思いがけず多かった英語の場合は、「これからの社会では、どうしても必要なものである」という親の考えが強く働いているようでした。



これらに対する現場の先生のご意見は、塾へ行っている子、いない子の学力差はなく、あまり効果は期待できないとのことでした。しかし、親にしてみますと、学校でこぼれたり、こぼれそうになったりする不安から塾に通わせるのではないのでしょうか。

あるクラスでは、「現場の先生にのみ自己犠牲を望むものではありませんが、月に二度でもそれこそ子どもたちが自発的に参加できるようにしていただくことはできないものでしょうか」との要望が出され皆の前で質問しにくい子どものために、直接先生にたずねやすくするためのノートなり、なにかを工夫していただくことになりました。いずれにしても、学校の授業以外に、多くの子どもが塾に通う現状を、学校教育・家庭教育のあり方の問題として、今後先生と一緒に考えて、真げんに考えていくべきであろうと、自分の反省も含めて考えさせられたよい機会でした。

★四月当初はどの子の顔にも最高学年になったのだ。後一年で卒業なのだという自覚と決意がみなぎって頼もしくさえ思われたが、それも束の間きょうこの頃である。ことに精神面のもろさと生活面の問題は学習以前の問題として不可欠のもの

家庭訪問雑感

訪問期間中にも「遊びに夢中で仲々勉強してくれず注意すれば、すぐ理屈をいって困る」とか「テレビを夜おそくまで見ていて朝仲々起きず時には朝食をとらずに登校する始末です」とか「日が暮れるまで遊び疲れて学習どころではありません」とか「今さら家庭での躰の問題をと思われするような話題が多く、どうせられる一週間だった。」

ひとむかし以前の家庭訪問では学級懇談会で話し合ったことが各家庭でどのような反響をよび変化が見られるようになったか実に具体的な話題が何え、ほのぼのとした気持ちで帰途につき明日の訪問が楽しみだったが何と味けなく形式的な訪問が多くなったことだろ

時代が変り多様化した社会生活の中では、お互いじっくり話し合う機会がないばかりか心にゆとりさえない大人たちが、裸になつて話し合う必要を強く感じた次第です。

★参観日にも出て来てもらえない方に会うことのできる家庭訪問の日、まるでたなばたの星のように一年一回の逢う瀬を期待して出かけるのだが、話されることは、テストの点のことばかり。

学習の成果はもちろんだいじなことであるが、よってくる原因を考えて話し合うことがより一層大切なことなのではないだろうか。

ふだんの生活が、性格となつて表われ、学習態度をかたちづけているのだから、一対一で話すときは、もっと心をわけて深い内面のなやみを打ちあけてほしいものだと思ふ。

★毎年家庭訪問で考えることなのだが、その目的は、児童の通学路を知り、家庭地域の生活環境を理

児童生徒の補導に 関する申し合せ事項

- 一、服装
  - 外出する際は、学校指定の服装を守ること。
  - 小学生は常に名札をつけること。
  - 私服は小中学生として品位をそこなわない服装であること。
- 二、映画
  - 三四地区視聴覚教育連盟推薦並びに承認以外は責任者が必ず同伴のこと。
  - 推薦並びに承認映画でも夜間または夜間に及ぶ時は責任者が必ず同伴のこと。
- 三、催し物
  - 入場は、責任者が必ず同伴のこと。
  - 中学生は昼間の場合は保護者
- 四、飲食店
  - 入場は、必ず責任者が同伴のこと。
- 五、ゲームセンター(コーナー)
  - 入場は、責任者が必ず同伴のこと。
- 六、水泳
  - 三四地区内の河川及び海岸や湖沼、池、ため、での遊泳は、全面禁止とする。
  - 学校プールの利用をすすめる。
  - 市営プールを利用する際、責任者同伴以外は小中学生は午後4時30分(冬期は午後4時)におこなわれる場内放送の指

示に従い、直ちに終り帰宅を急ぐこと。

七、ローリースケート場  
緑地公園内のスケート場並びに特別に許される公認の場所以外では全面禁止する。  
緑地のローリースケート場を利用するときは午後4時におこなわれる場内放送の指示に従い直ちに終り帰宅を急ぐこと。

八、アイススケート場  
入場は、責任者が必ず同伴のと。  
中学生は長期休暇中に限り保護者の許可を得ればよい。責任者同伴時以外に利用する時は午後4時におこなわれる場内放送の指示に従い直ちに終り帰宅を急ぐこと。

九、遊びについて  
年末、年始、祭礼、盆おどり等に限り、夜遊びは原則として午後10時までとする。  
。花火については、爆発性花火は使用禁止とする。  
。サイクリングは、責任者同伴のこと。  
。魚つり、たこ上げ等については、危険のないよう適切な指導をする。

十、次の行為はすべて禁止する。  
。火遊び、シンナー遊び、オートバイや車の無免許運転、喫煙、飲酒、自転車二人乗り。

# 常任委員会だより

★ 去る六月三日(木)午後七時より、第三回常任委員会が開催されましたので、次のとおりご報告申し上げます。

- 一、各専門部から  
本年度の活動計画のあらましを発表していただき、全員でこれを確認し、計画していただくのとおり、実施していく事に決定しました。
- 後日、一覧表にして委員の皆様にお送りいたします。
- 二、その他の報告事項
- 三、学校行事報告

★ 第四回常任委員会、去る七月一日午後七時より開催されましたので、次のとおりご報告いたします。

- 一、専門部より  
。安全部  
1、来る七月六、七、八日の三日間で、自転車点検を実施する。  
場所は、小学校校庭
- 2、去る六月十四日に地区内危険個所の総合点検を行なったこと。
- 3、七月九日に、小学校で交通安全教室を開催する

こと。  
主として、自転車の安全な乗り方と歩行の仕方について。

- 4、七月十四日午後二時より救急法の講習を、小学校で行なうので多数出席してほしい。
- 。文化部  
1、去る六月二十五日行なわれた授業参観と懇談会で各クラスで話し合われた内容は、まとめて「しでがの」に載せるので、よく読んでおいてほしい。
- 二、学校行事報告  
本年より夏期休業は、七月二十一日からはじまるので、よろしく願いたい。
- 三、学校プール運営について  
本年も例年通りとし、町代表を通じて、監視人を依頼したのでよろしくご協力下さい。  
尚、霞・白須賀・富士は学校プールを使用しないので、監視当番からは、必ずすことを全員で了解した。
- 四、町別懇談会について  
本年より各町ごとに、都合のよいところから、実施して

いく。  
本年度内に全町が終わるようにした。

ですく  
さいど

- ◇ 暑中お見舞申しあげます。
- ◇ 今年もまた、夏休みがやってきました。子どもにとって楽しく親にとっては頭のいたいという向きもおありかも……。
- ◇ 夏休み特集を参考に、子にも、親にもいい夏休みでありたいものです。
- ◇ 新しい投書箱ができました。  
黄色いきれいな箱が、給食室前の渡り廊下に、取り付けられました。  
どんな小さなことでも結構です。ご意見をお待ちしています。

